

福島放技ニュース

巻 頭 言

無 声 呼 人

(社) 福島県放射線技師会会長 片倉 俊彦

本年、公益法人改革の3法案が成立した。改正後は社団法人も公益社団法人と一般社団法人に分けられ、公益社団法人は現在の社団法人と同様であるが審査はかなり厳しくなる。このような状況の中、福島県放射線技師会は日本放射線技師会の会費收受業務を本会業務として行っておりその金額は本会予算の大きな部分を占めている。このことは公益社団法人の審査条件的には大きな障害となる。福島県放射線技師会を公益法人とするためには他の法人である社団法人日本放射線技師会とは明確に分離されていることが必要と思われる。幸いにして本会の定款では他の多くの県とは異なり、会員の要件に日本放射線技師会の会員であることを求めている。このことは最もわかり易い独自性と思われ、日本放射線技師会会員であることに価値を認めない諸君も含めの多くの放射線技師の福島県放射線技師会への入会を勧めたい。公益法人として認められるためには他にも非常に高いハードルが存在するが福島県内の多くの技師の技術レベル向上が福島県の地域医療向上に役立つとの判断があれば本会の公益性が認められる可能性も大きいと考えるからである。公益社団法人と一般社団法人でどのような違いが出るものか定かではないが社会的な評価には大きな差が生ずるように思われる。今、まさに診療放射線技師の力を結集し自らの職業の社会的な評価を考える時ではないだろうか。

福島県放射線技師会が新法の公益社団法人となるためには定款改正を含めた準備と審査委員会との交渉が必要である。会員は法的にもその権利が認められる社団法人の社員であり、運営費用を負担するものの権利として会の運営に自らの意見を反映できる制度の整備は基本である。また、執行部が独断で先行したり、特定の個人を利する行為に対しては退任などのキチンとした責任をとらせる制度も必要と思われる。

今年度予定の日本放射線技師会の示す改正定款を参考にしながら、討論を重ねたい。

放射線技師の技術昂揚を目的として、会員を差別することなく会員の負担が最小で最大の効果が得られる企画を数多く重ねることにより、「大きな声をあげることなく人が呼べる」すなわち「無声呼人」の活動を行っていききたい。

日本放射線技術学会 東北部会開催される

東北部会第 44 回学術大会は本県の担当で 9 月 9～10 日に福島テレサに於いて開催された。

大会会長に片倉会長、実行委員長に鈴木副会長と本県技師会総力を挙げての開催となり、県役員はじめ医大のスタッフや多くの会員の協力で、盛会のうちに終了した。参加登録者が 300 名を超え、研究発表演題数も 43 題の申し込みがあり、2 会場に分かれて、熱心な発表や質疑が行われた。

特別講演は「医療スタッフに必要な、臨床心理学とチーム医療」と題して臨床心理士の吉村佳世子先生の講演が行われた。私たちににとって一番苦手な分野でもある患者心理を易しく解説して頂き、より良いコミュニケーション作りの考え方や“こつ”のようなものを教えて頂いた。シンポジウムは「放射線技師に求められる患者心理への配慮」とのテーマで、医師、看護師、臨床心理士、患者のそれぞれの立場から、日頃思っていることや伝えたいこと等を 4 人の先生にお話し頂いた。我々が日常業務で何気なく行っている行動が、予想外の受け止められ方をしたり、誤解の基になったりすると指摘され、意外な発見もあった。

今回は、特別講演、シンポジウムとも患者心理を考える共通したテーマを取り上げ、今まで避けて通っていた感のある私達放射線技師も、電子カルテの時代では情報の共有化と他職種との連携、そして患者さん中心のチーム医療がもたらされ、知らなかったでは済まされない必須の事項である。今回のテーマをそれぞれの職場に持ち帰り、患者さんのことや、周りの環境などを見直すきっかけにしたいものである。

懇親会は福島テレサのレストランで行われたが、参加者が多く会場に入り切れず、2階のロビー帯が懇親会場となるなど大盛況であった。

実行委員の皆様、大変ご苦労さまでした。



第 22 回放射線技師総合学術大会（米子）

第 22 回放射線技師総合学術大会は、第 3 回日韓台合同学術大会を兼ね、10 月 6～9 日、米子市で開催されました。初日の 6 日（金）に表彰が行われ、本県から永年勤続 50 年に根本壽男さん（今村病院）、永年勤続 30 年に須藤敏秀さん（共立病院）他 7 名が受賞しました。表彰式に出席された、根本さん、須藤さんは奥様もご同席で、永年のご苦労に感謝し喜びを共にされました。終了後には、それぞれ記念のご旅行もなされり感激を新たにされたことでしょう。

米子市は山陰の鳥取県にあり、遠隔地のせいかな本会会員による演題発表はありませんでしたが、伊藤事務局長を中心に大会参加と観光旅行が計画され、5 組 10 名のご夫妻が鳥取・島根県の旅に参加しました。

折から台風や豪雨で福島県も災害のあった時ですが、鳥取砂丘や宍道湖、出雲神社参拝から松江城、安来節などじょうすくい踊りと楽しめました。

写真

永年勤続表彰受章者

50 年表彰 根本壽男（今村病院）

30 年表彰 須藤敏秀（共立病院）、栗田祐治（公立相馬総合病院）、渡辺和夫（太田総合病院）、斎藤義美（同）、目黒清（保健衛生協会）、斎藤信夫（同）、鈴木光浩（矢吹病院）、穴沢幹夫（福島南循環器病院）

県厚生連放射線技師会開催される

福島県厚生連放射線技師会（会長吉田豊 会員 45 名）は 7 月 22～23 日の 2 日間、第 35 回技師研修会を開催した。県内 7 施設から会員・関係者 52 名が郡山市磐梯熱海「清稜山倶楽部」に参集した。特別講演として太田坂下厚生総合病院放射線科部長による「MRI 検査で何がわかるのか？」を聴講し、35 回記念講演として元技師会長の根本氏が「放射線技師 50 年を振り返って・・・」を画像診断の変遷と照らし合わせて話された。夜は交流会が行われ会員相互が懇親を深め合った。翌日は各メーカーのご好意で「モーニング展示会」が開かれた。また恒例の技術講演として島津製作所から「FPD 最新情報」を GE 横河から「PET 最新情報と動向」を話して戴いた。会員研究発表は 8 題（MRI・MDCT・MMG・RI・バス検診・診療報酬など）が発表された。続いて定期総会が行われ全議事が承認され 12 時 15 分散会した。

（北島）

アドバンスド放射線技師認定試験終了

平成18年10月1日アドバンスド放射線技師認定試験が福島県立医大で行われた。

全部で4科目の試験が行われたが、救急医療学については本県で開催されたセミナー後、初となるだけに多くの会員が熱心に問題と取り組んでいた。

試験は前もって提出が義務付けられている、各教科ごとの小論文と今回の認定試験の成績で判定されることになる。これで昨年からは県として取り組んできたアドバンスド放射線技師格獲得のための、セミナーは今回の認定試験を持って、一区切りつくことになる。

これまで福島県は他県に較べて技師格保有者が少なかったが、一通りの講習及び認定試験が終了したことで、多くのアドバンスド放射線技師、さらにはシニア放射線技師の誕生が期待される。

技師格制度に関しては、まだまだ問題も多く全国的にも保有者はもとより受講者も少ない現状ではありますが、福島県としては、今後も出来るだけ会員に負担のかからない方法での開催を検討していますので、今回受験できなかった会員も次の機会には多くの参加をお願いします。

飲酒運転の根絶について

(厚生労働省医政局通知)

平成18年9月15日、中央交通安全対策会議交通対策本部において「飲酒運転の根絶について」の決定がなされた。貴公益法人におかれては、本決定について御了知いただき、特に下記の点に留意の上、適切に対応するよう取り計らわれない。

- 1、酒気を帯びては絶対に車両等を運転してはならない。また、同乗者は酒気を帯びた者に運転をさせてはならないこと。
- 2、酒気を帯びて運転するおそれがある者に酒類を提供し、または飲酒をすすめてはならないこと。

本会会員から違反者を出さないように皆で守りましょう。

出版広報委員会より

福島県放射線技師会ニュースの発行も数を重ねて、12月号で100号を数えますので記念号にしようと現在計画中です。その内容は、各支部が1ページを担当し、自由に誌面を作ることになりました。

支部長の言葉を共通の記事として載せますが、それ以外は支部の編集委員を中心に内容も構成も独自のアイデアで誌面を作ってみます、初めてのことなのでどうなるか心配ですが、ご期待下さい。

この際だからこんなことを言ってみたくか、載せたいことがある会員は、支部の編集委員へご連絡下さい。

平成18年度(社)福島県放射線技師会

放射線技師学術大会プログラム

日時：11月12日(日曜日)

会場：福島医大 大講堂

9:20 参加登録受付開始

10:00 開会式、表彰式

開会の挨拶 実行委員長 新里 昌一(学術担当)

大会長挨拶 県技師会会長 片倉 俊彦

10:15 フレッシュアップセミナー

座長：新里 昌一(太田西ノ内病院)

「朝からズバッとわかるMRI -拡散強調画像-」

講師：川上 典孝(白河厚生総合病院)

10:45 セッション□ MRI(4題)

座長：赤石澤 孝(総合南東北病院)

11:25 セッション□ RI・治療(4題)

座長：山田 隆弘(会津中央病院)

12:10-13:20 休憩

12:20 ランチョンセミナー

司会：鈴木 憲二 県技師会副会長

【超実践マニュアルCT -腹部編□】

「サクッとわかるCT検査」

講師：吉川 秀司(大阪医科大学附属病院)

13:20 セッション□ 同意書・他(3題)

座長：吉田 豊(白河厚生総合病院)

13:50 セッション□ 一般撮影・マンモ(5題)

座長：照井 英樹(太田熱海病院)

14:50 ショートスタディ

座長：小坂橋 健一(太田西ノ内病院)

「衛生工学衛生管理者とは？」

講師：高橋 剛士(太田西ノ内病院)

15:10 セッション□ IVR・被曝線量(3題)

座長：大和田 重義(公立相馬総合病院)

15:30 セッション□ CT・情報(5題)

座長：樵 勝幸(県立医科大学附属病院)

16:20 閉会挨拶

副実行委員長 白川 義廣(竹田総合病院)

根本壽男さん(今村病院)よりご寄付

日本放射線技師会全国学術大会で、永年勤続50年表彰を受けられた根本壽男さんから、本会へ金10万円のご寄付がありました。本会では、基金として会の発展に活用させていただくこと、来年度総会で感謝状を差上げることを次回理事会に提案予定です。

支部だより

《県南支部》

第14回福島県MRI技術研究会県南地区勉強会開催

平成18年9月5日(火曜日)に須賀川市公立岩瀬病院で午後7時より、福島県MRI技術研究会県南地区勉強会が開催された。今回は趣向を変えて公立岩瀬病院放射線科景山和廣先生、影山正男技師長及び放射線科スタッフの方々の協力のもと、Excelart Pianissimo 1.5T

(東芝社製)、Fuji CRの見学会を開催することとなった。研究会には24名の参加があり、撮影時の音が静かで知られている Excelart Pianissimo の音を参加者で体感し、また今年の7月に公立岩瀬病院で導入されたFuji CR装置の見学会も行われた。すでに導入された施設の方々からFuji CR装置の使用感やまた、公立岩瀬病院放射線科スタッフへのアドバイスなどがありました。お聞きしたところ、公立岩瀬病院ではFuji CR装置導入時に計画されていたFuji製のRISも11月に稼働予定だそうです。(車田)

《浜通り支部》

浜通り支部夏季セミナー開催される

平成18年8月26日(土)12:30から富岡町のリフレ富岡において、浜通り支部夏季研修会が開催されました。今回のテーマはナナオ株式会社映像商品開発部の橋本憲幸先生を招いて「LCDモニタの特性と管理」と題して講義とモニター調整ソフトを使用した実習が行われました。調整前後でのモニター表示の違いに驚かされ、日常のモニター管理の重要性を感じさせるセミナーでした。今後は院内が電子化してモニター利用台数が増えればモニター管理者が必要であること、また簡易にモニター調整を行えるソフトの役割が重要であることを感じさせました。いつになく、熱気にあふれた会場の雰囲気がありました。

また、予定されていた「医療被曝測定セミナー報告」は予定演者からの提案で1回のセミナーで理解できるほどの易しい内容ではなく、発表にも検討を要することから次回以降の発表を行うことで中止されました。その時間をモニター管理実習にも十分あて有意義なセミナーでありました。(大森)

《県北支部》

第5回MDC Tカンファレンスの開催

平成18年9月30日(土)福島テルサにおいて、第5回MDC Tカンファレンスが開催されました。今回は「ZIO」をテーマに、県北の7施設の方がMDC T装置のデータ活用法や、日頃使用しているワークステーションの使用法などについて発表を行った。

また教育講演として、アミン(株)営業企画課の七戸金吾先生より『ザイオ〜テクニクはこうも使える〜』と題し、VRとMIPの違いや障害陰影の除去の方法など

実技を交えたわかりやすい話があった。また大原総合病院口腔外科の長谷川博先生より『口腔外科領域におけるMDC Tの活用』について、MDC T画像の有用性や治療方法などについて、臨床画像を通しての貴重なご講演をいただきました。この勉強会は毎回、放射線科専門医の森谷浩史先生をアドバイザーとして行われており、様々な意見交換や情報交換の有意義な場となっているようです。(池田)

【発表者】樵 勝幸(福島県立医科大学)、佐藤佳晴(公立藤田総合病院)、畠山徹也(北福島医療センター)、相澤浩樹(福島赤十字病院)、橋本浩二(大原総合病院)、渡辺晃成(福島保健衛生協会)、安部 努(柗記念病院)
《会津支部》

会津健康まつり開催される

平成18年9月3日(日)、会津若松市文化センターにおいて、第22回健康まつりが開催されました。

当日は、環境フェスタ in あいづと高校生の高体連の開催が重なったためか、家族連れや高校生などにも足を運んでもらって、例年以上に大勢の人であふれていました。

今年の健康まつりでは「地域の輪、広げて育む 健康の輪」をテーマとして、健康づくりの啓蒙普及をしようとして、参加した各構成団体が様々なイベントに力を入れているようでした。そんななか、放射線技師会会津支部では、「からだの中をのぞいてみよう!」と題して、放射線科で行われているいろいろな検査のパネルを展示したり、MDC Tで撮影した様々な3D画像や脳ドックなどのMRI画像を表示したり、心カテの動画を流したりしました。我々医療に携わる者にとっては普段から見慣れた画像ではありますが、そういった画像を見る機会の少ない一般に人たちにとっては、体の中を表示した画像はやはり目を引くようで、非常に興味津々と言った様子で身を乗り出して隅々まで観察していく人がいたり、逆におっかなびっくりと言った感じで身を引いて遠くから眺めているだけの人もいたり、いろいろな反応を見る事が出来て、なんだか新鮮に感じました。また、特に女性からは、マンモグラフィを始めとした乳癌検診に関する質問や相談が多かったようで、病院ではどの診療科に行けばよいのかという相談があったり、画像や読影に関する専門的な質問に返答を窮することもありましたが、一方で非常に高い関心を持たれていることを感じました。

当日は夏の残暑厳しく、とても暑い日でしたが、それでも大勢の参加者に恵まれたおかげで大成功をおさめて、無事に閉会を迎えることが出来ました。

(森谷)

編集後記

秋晴れの気持ちいい天気が続きます。毎日どこかに行きたい気分をグッと堪えて仕事しています。11月には県学術大会が開催されます。皆様、奮ってご参加下さい。(北島)